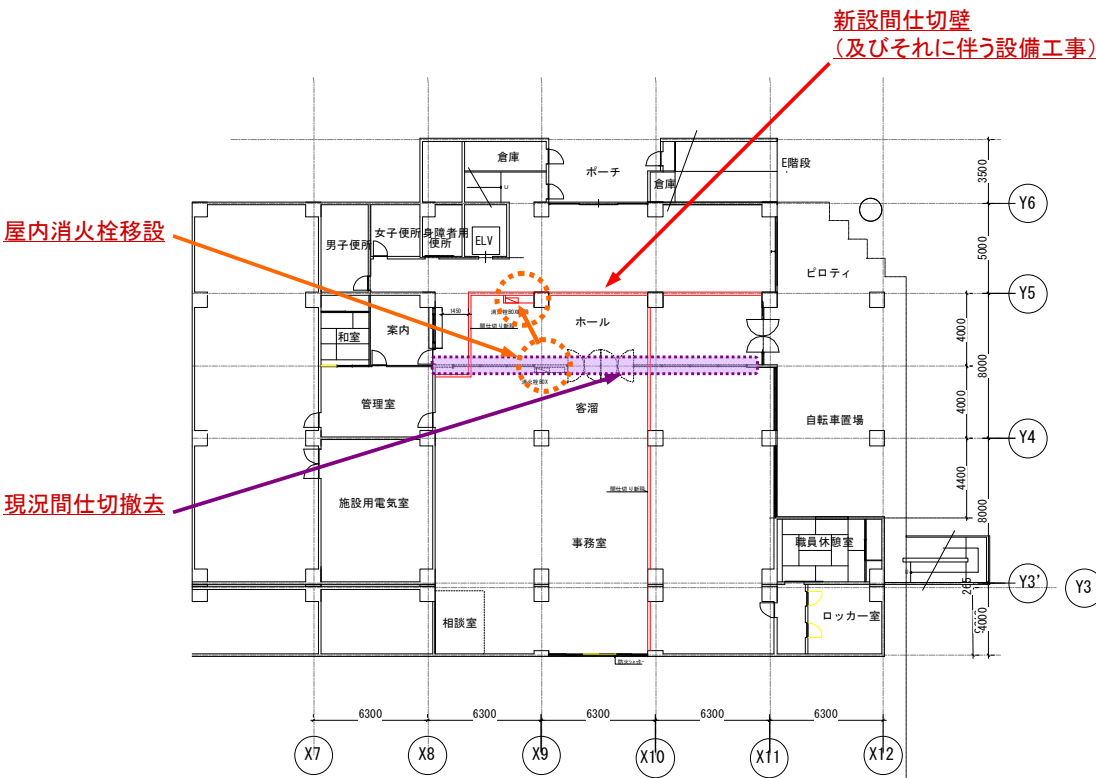




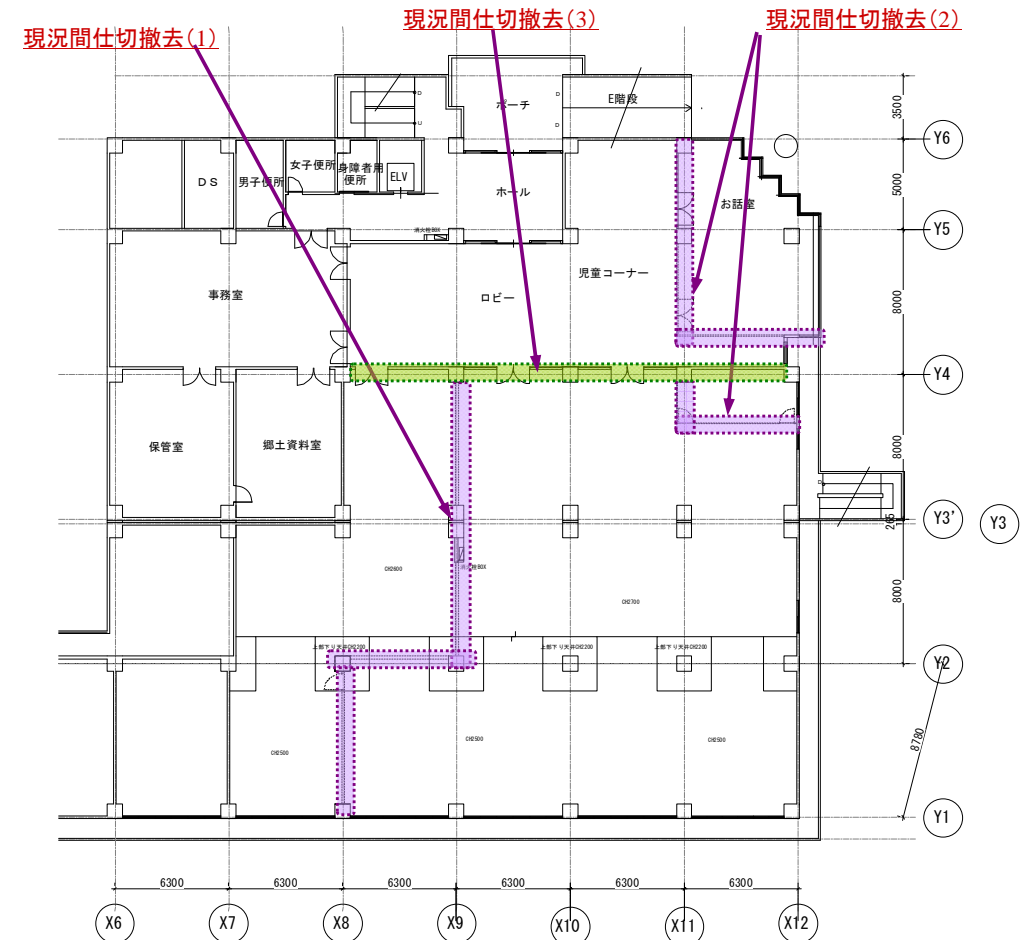
### 1F 改修に伴う考慮事項

- ・ 既設ホールー事務室間間仕切り撤去  
→ゾーニングを変更し、間仕切壁を新設
- ・ 屋内消火栓の移設（増設の可能性もあり・所轄消防署と要協議）
- ・ 火災報知機、スプリンクラー等の移設/増設（所轄消防署と要協議）
- ・ 分割後の室性能要求に伴う部屋分割後の空調性能検討
- ・ 照明点灯回路の変更
- ・ 用途変更に伴う床耐荷重の検討



### 2F 改修に伴う考慮事項

- ・ 現況間仕切壁撤去 (1)  
→厚さ150ミリのコンクリート壁  
おそらくは構造負担のない壁と憶測されるが、構造図の確認を行う必要有り
- ・ 現況間仕切壁撤去 (2)  
→構造と関係ない乾式間仕切壁なので撤去可
- ・ 現況間仕切壁撤去 (3)  
→撤去可であるが、ゾーニングによって撤去の可否を検討必要
- ・ 間仕切り改変に伴う、照明点灯回路、空調、消防設備についての改変の検討が必要



#### 判例

- 点線 既存間仕切壁撤去予定部分
- 赤線 新設間仕切壁



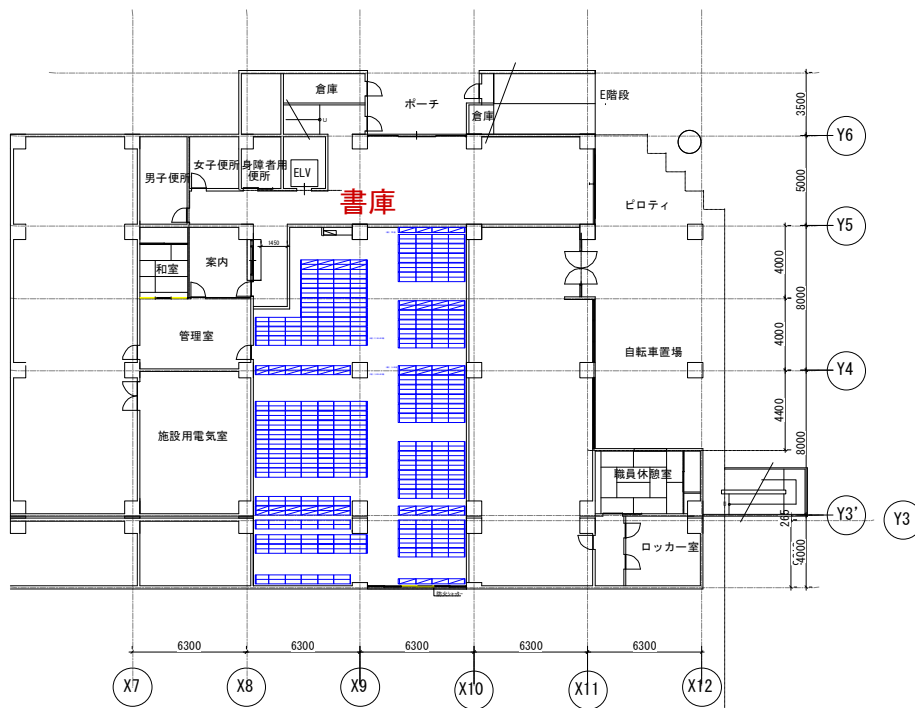
### 1F

◆集密移動棚を集中配置した閉架書庫として計画

→天井高より6段での計画

収容冊数 約90,360冊 (30冊/棚にて算出)

→床耐荷重 1.5t/m<sup>2</sup>程度の荷重となるので、**床スラブおよび梁補強の検討が必要**

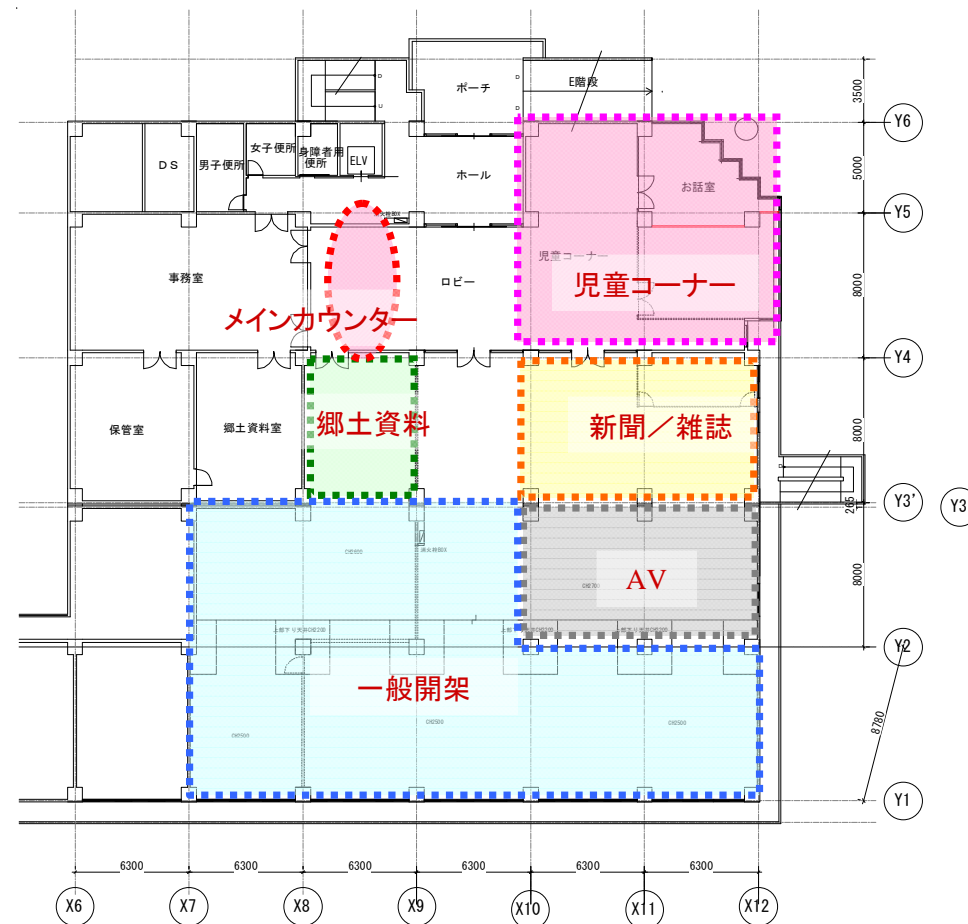


### 2F

◆一般・児童を集中配置

→児童については現況間仕切りを有効に利用し、一般開架との分離独立させ、騒がしさの分節を図ることができる・

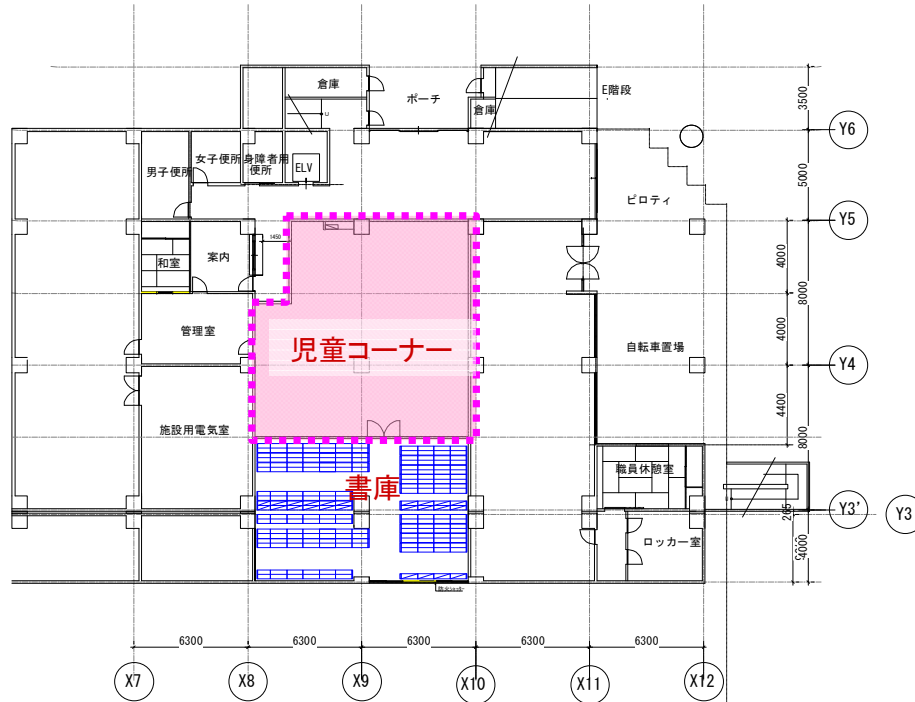
→現児童空間仕切りを改変し、お話室を設定する





### 1F

- ◆ホール側に児童閲覧室を計画  
→スタッフの配置が必要となる
  - ◆奥側に集密移動棚を集中配置した閉架書庫として計画  
→天井高より6段での計画  
収容冊数 約35,280冊 (30冊/棚にて算出)
- 床耐荷重 1.5t/m<sup>2</sup>程度の荷重となることを想定し、床スラブおよび梁補強の検討が必要



### 2F

- ◆書庫を残して、一般開架を配置  
→新聞/雑誌、AVをロビー側に、郷土資料と一般開架を旧開架室側に設ける。  
→この場合は、『現況間仕切壁撤去(3)』のメニューを適応しても良い

